

科目名	家族生活アセスメント学 Discussions on Family Life Assessment
授業形態	講義(30%)、演習(70%)
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春学期 A・B 水曜日5・6 (他曜日への振り替えあり。各回、受講生と協議の上変更の可能性あり)
単位数	2単位
担当教員名	涌水 理恵 安梅 勅江 日高 紀久江 森 千鶴 大宮 朋子 小澤 典子 杉本 敬子 牟田 理恵子
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めませんが事前にメール連絡をしてアポイントメントをとること 涌水 理恵 riwaki@md.tsukuba.ac.jp 安梅 勅江 anmet@md.tsukuba.ac.jp 日高 紀久江 kikueh@md.tsukuba.ac.jp 森 千鶴 mori@md.tsukuba.ac.jp 大宮 朋子 toomiya@md.tsukuba.ac.jp 小澤 典子 nozawa@md.tsukuba.ac.jp 杉本 敬子 ksugim3@md.tsukuba.ac.jp 牟田 理恵子 rieko_muta@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1)国内外の主要な家族アセスメントツールについて調べ、理解することが出来る (2)国内外の主要な家族アセスメントツールの活用方法について理解することが出来る (3)国内外の主要な家族アセスメントツールについて説明することが出来る (4)国内外の主要な家族アセスメントモデルについて調べ、理解することが出来る (5)国内外の主要な家族アセスメントモデルの活用方法について理解することが出来る (6)国内外の主要な家族アセスメントツールについて説明することが出来る (7)慢性疾患を有する患者の疾病・障害に対する診断治療を理解し、家族を体系的にとらえることが出来る (8)慢性疾患を有する患者家族の健康および生活をアセスメントすることが出来る (9)パーストラウマや産後鬱を有する母親に対する診断治療を理解し、子どもを含め家族を体系的にとらえることが出来る (10)パーストラウマや産後鬱を有する母親とその家族の健康および生活をアセスメントすることが出来る (11)精神疾患を有する患者の疾病・障害に対する診断治療を理解し、その家族を体系的にとらえることが出来る (12)精神疾患を有する患者家族の健康および生活をアセスメントすることが出来る (13)地域で暮らす患者の状況を理解し、その家族を体系的にとらえることが出来る (14)地域で暮らす患者家族の健康および生活をアセスメントすることが出来る (15)意識障害を有する患者の疾病・障害に対する診断治療を理解し、家族を体系的にとらえることが出来る (16)意識障害を有する患者家族の健康および生活をアセスメントすることが出来る (17)高齢者を介護する家族を体系的にとらえることが出来る (18)高齢者を介護する家族の健康および生活をアセスメントすることが出来る (19)家族アセスメントツール・モデルを活用した事例について分析することが出来る (20)事例を通して、家族アセスメントツール・モデルを活用する意義を検討し、説明することが出来る
他の授業科目との関連	家族看護学演習、家族アセスメント・インターベンション学
履修条件	なし
授業概要	家族員の疾病・障害に対する診断・治療を理解しつつ、家族看護の対象である家族を系統的に捉え、家族の健康および生活をアセスメントするために必要な理論および方法とその活用について知識を習得し、理解を深める。この科目では特に、家族看護学実践の基盤である家族の健康をアセスメントする能力とその方法を活用する能力の習得に重点を置く。
キーワード	家族の生活、家族の健康、家族のアセスメント

授業計画	<p>1 (未定)(家族看護学理論の概説1)(涌水)</p> <p>2 (未定)(家族看護学理論の概説2)(涌水)</p> <p>3 (未定)(国内外の主要な家族アセスメントツール1)(小澤)</p> <p>4 (未定)(国内外の主要な家族アセスメントツール2)(小澤)</p> <p>5 (未定)(国内外の主要な家族アセスメントモデル1)(安梅)</p> <p>6 (未定)(国内外の主要な家族アセスメントモデル2)(安梅)</p> <p>7 (未定)(精神疾患を有する患者家族の健康と生活のアセスメント1)(森)</p> <p>8 (未定)(精神疾患を有する患者家族の健康と生活のアセスメント2)(森)</p> <p>9 (5/28)(バーストラウマ・産後うつ症を有する母と子、家族のアセスメント1)(杉本)</p> <p>10 (5/28)(バーストラウマ・産後うつ症を有する母と子、家族のアセスメント2)(杉本)</p> <p>11 (5/29)(地域で暮らす患者家族の健康と生活のアセスメント1)(大宮)</p> <p>12 (5/29)(地域で暮らす患者家族の健康と生活のアセスメント2)(大宮)</p> <p>13 (6/5)(高齢者を介護する家族の健康と生活のアセスメント1)(安梅)</p> <p>14 (6/5)(高齢者を介護する家族の健康と生活のアセスメント2)(安梅)</p> <p>15 (6/12)(意識障害を持つ患者家族の健康と生活のアセスメント1)(日高)</p> <p>16 (6/12)(意識障害を持つ患者家族の健康と生活のアセスメント2)(日高)</p> <p>17 (6/27)(慢性疾患を有する患者家族の健康と生活のアセスメント1)(牟田)</p> <p>18 (6/27)(慢性疾患を有する患者家族の健康と生活のアセスメント2)(牟田)</p> <p>19 (6/28)(家族アセスメントツール/モデルの活用事例に関するディスカッション1)(安梅)</p> <p>20 (6/28)(家族アセスメントツール/モデルの活用事例に関するディスカッション2)(安梅)</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>講義(9時間)、演習(21時間)</p> <p>授業外でも、教員や学生同士で授業内容の活用方法の討論を活発におこなうこと。また日頃から関連する文献を検索・講読し、授業内容について、積極的に思考する態度をもつこと。</p> <p>新しい家族のアセスメント法に関して自主的にその活用方法を討議し、臨床現場においてそのアセスメント法を展開するための前準備や介入に繋げる方策等について積極的に思考する態度を持つこと。</p>
成績評価方法	<p>15コマ以上の出席と最終評価が60点以上が単位主要要件である。</p> <p>成績評価方法および評価配分は以下の通り。毎回、プレゼンテーション(50%)、ディスカッション(50%)で、行動目標の達成度を基準に基づいて判定し、全10回分の平均をとって成績を評価する。</p> <p>評価基準は以下の通り。</p> <p>到達目標を指導に従って大旨達成できればC以上と判断する。</p> <p>到達目標を大旨達成できていると判断されればB以上と判定する。</p> <p>到達目標を優れて達成できていると判断されればAと判定する。</p> <p>到達目標を非常に優れて達成できていると判断されればA+と判定する。</p>
教材・参考文献・配布資料等	<p>小林奈美著. 実践力を高める 家族アセスメント PartIジェノグラム・エコマップの描き方と使い方. 医歯薬出版株式会社. ほか随時紹介・随時配布する。</p>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	<p>やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。30分を過ぎた遅刻は欠席とみなす。</p>